

お知らせ



〈同時資料提供先〉 島根県政記者会
JR西日本米子支社記者クラブ

令和3年9月3日

「国道9号出雲市多伎地区地すべり対策検討委員会」 の開催結果に基づいた今後の見通しについて

令和3年9月3日に開催した「国道9号出雲市多伎地区地すべり対策検討委員会」の結果及びその結果に基づいた今後の見通しをお知らせします。

地すべり検討委員会結果

- ・議事次第、出席者配席表・・・・・・・・別紙－1
- ・説明資料・・・・・・・・別紙－2
- ・結果要旨・・・・・・・・別紙－3

結果に基づいた今後の見通し

○国道9号の道路再開について

出雲市多伎町地内における地すべり箇所の応急対策には、今後1カ月程度かかる見込みで、片側交互通行による道路再開には、さらに路面補修など2週間程度（全体で約1.5ヶ月）必要と考えております。

なお、今後の天候（大雨や台風）や地すべり変位の状況により計画は変更となることもあります。

○JR復旧見込みについて

出雲市多伎町地内における地すべりの影響により不通となっている山陰本線 江南～田儀駅間では、国交省による斜面の土砂撤去作業に合わせた復旧計画としています。

このため斜面工事と同様に運転再開には、約1ヶ月程度を要するものと考えております。

なお、今後の天候（大雨や台風）や地すべり変位の状況により計画は変更となることもあります。

問い合わせ先 (道路関係)	国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所
	副所長(管理) 安川 雅雄(やすかわ まさお) (内205)
	【広報担当】 計画課長 岡田 直人(おかだ なおと) (内261)
	TEL: (0852) 60-1345 (直通)
	: (0852) 26-0611 (夜間・休日)
	URL: http://www.cgr.mlit.go.jp/matsukoku/

問い合わせ先 (鉄道関係)	西日本旅客鉄道株式会社 米子支社 総務企画課
	総務企画課長 足立 勉(あだち つとむ)
	TEL: (0859) 32-0255 (直通)
	URL: https://www.westjr.co.jp

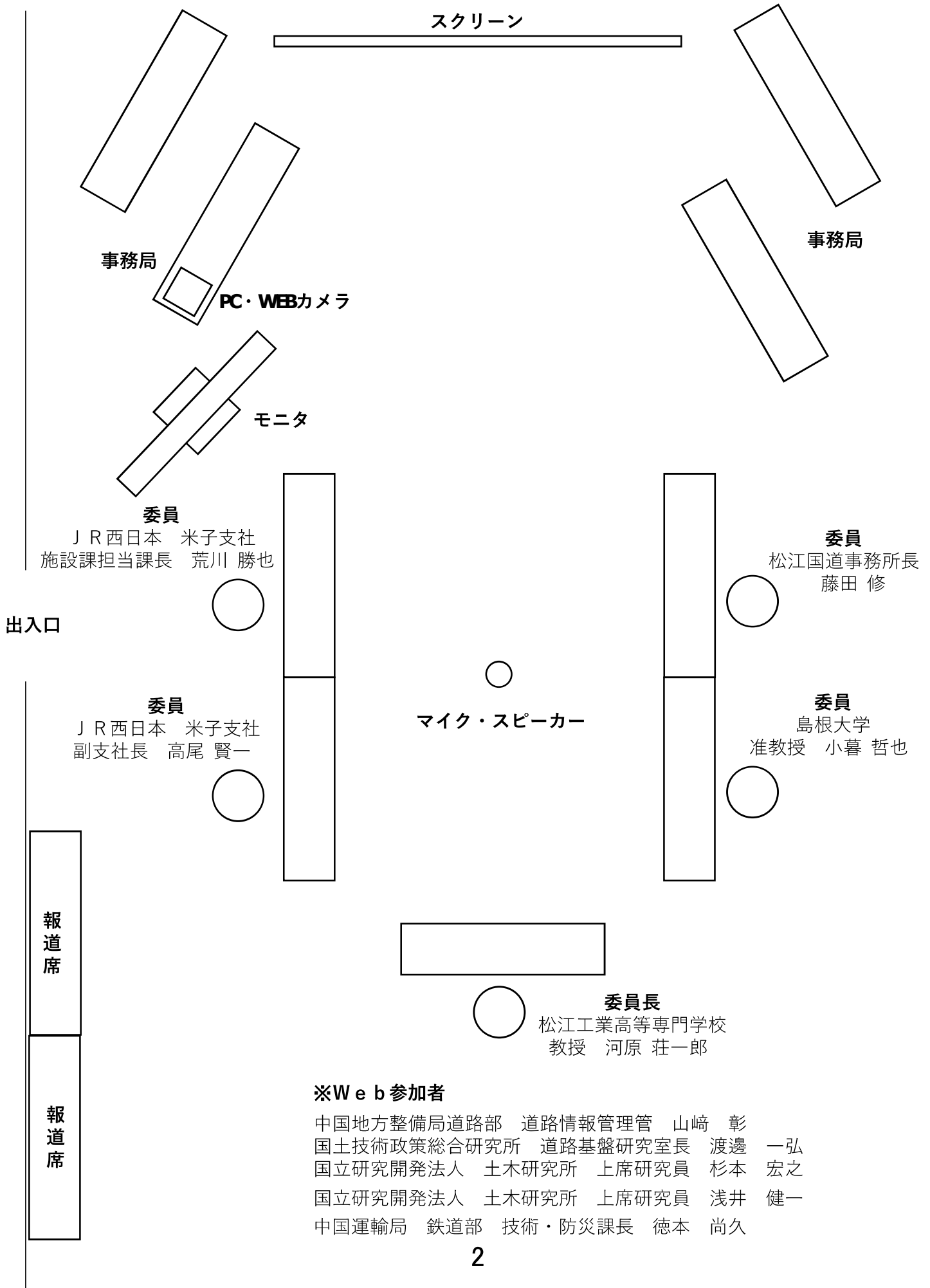
国道9号出雲市多伎地区地すべり対策検討委員会

日 時：令和3年9月3日（金）13:30～
場 所：松江国道事務所 3階会議室(Web併用)

議 事 次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 設立趣旨
4. 議事
 - 1) 被災状況
 - 2) 応急対策工（地すべり抑制等）、その対策状況
 - 3) 変位の状況と監視体制
5. その他
6. 閉会

国道9号出雲市多伎地区地すべり対策検討委員会
出席者配席表



歩道 50 cm 以上せり上がり



2021/8/20 17:00
510 mm 水平移動



最大 H = 3 m 滑落



H = 約 3.0 m

L = 約 10.0 m

H = 約 1.0 m

歩道 約 2.0 m 滑落



2021/8/20 17:00
1050 mm 水平移動

8月20日時点

■地すべり範囲



擁壁 3.3m水平移動

A点
水平1.7m
隆起0.7m

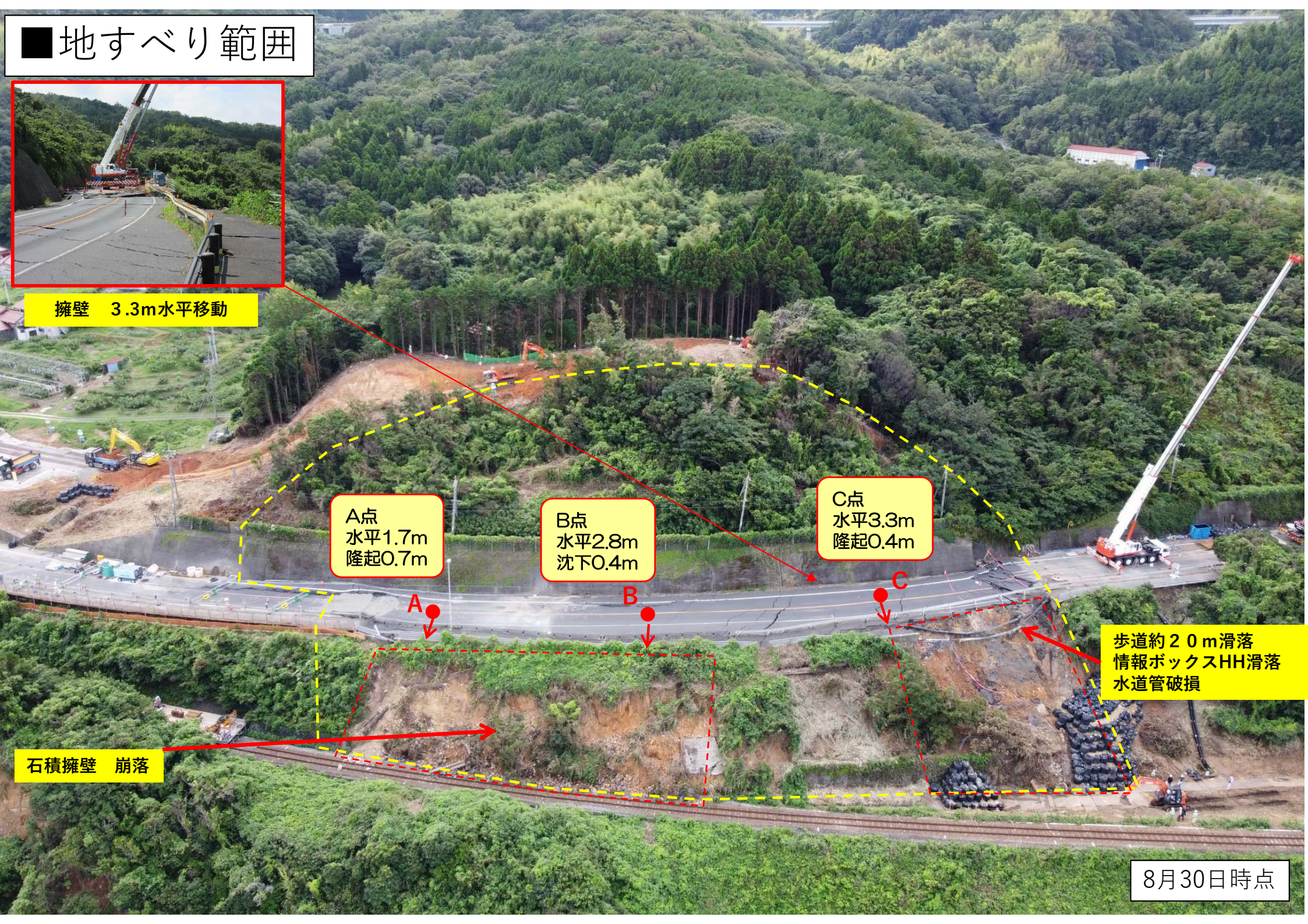
B点
水平2.8m
沈下0.4m

C点
水平3.3m
隆起0.4m

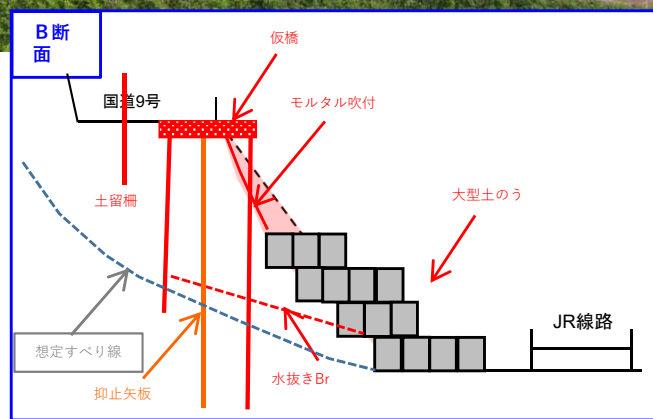
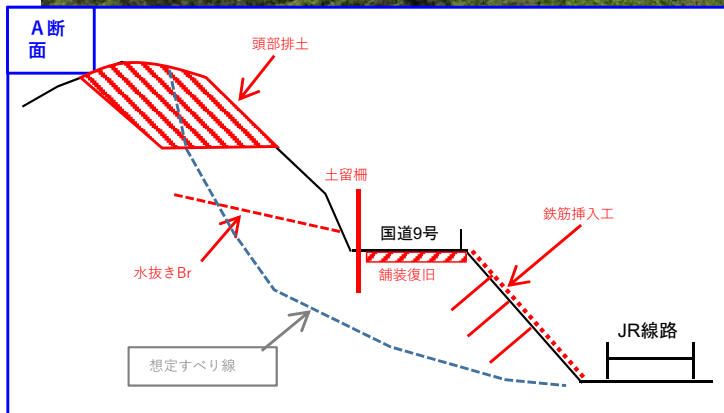
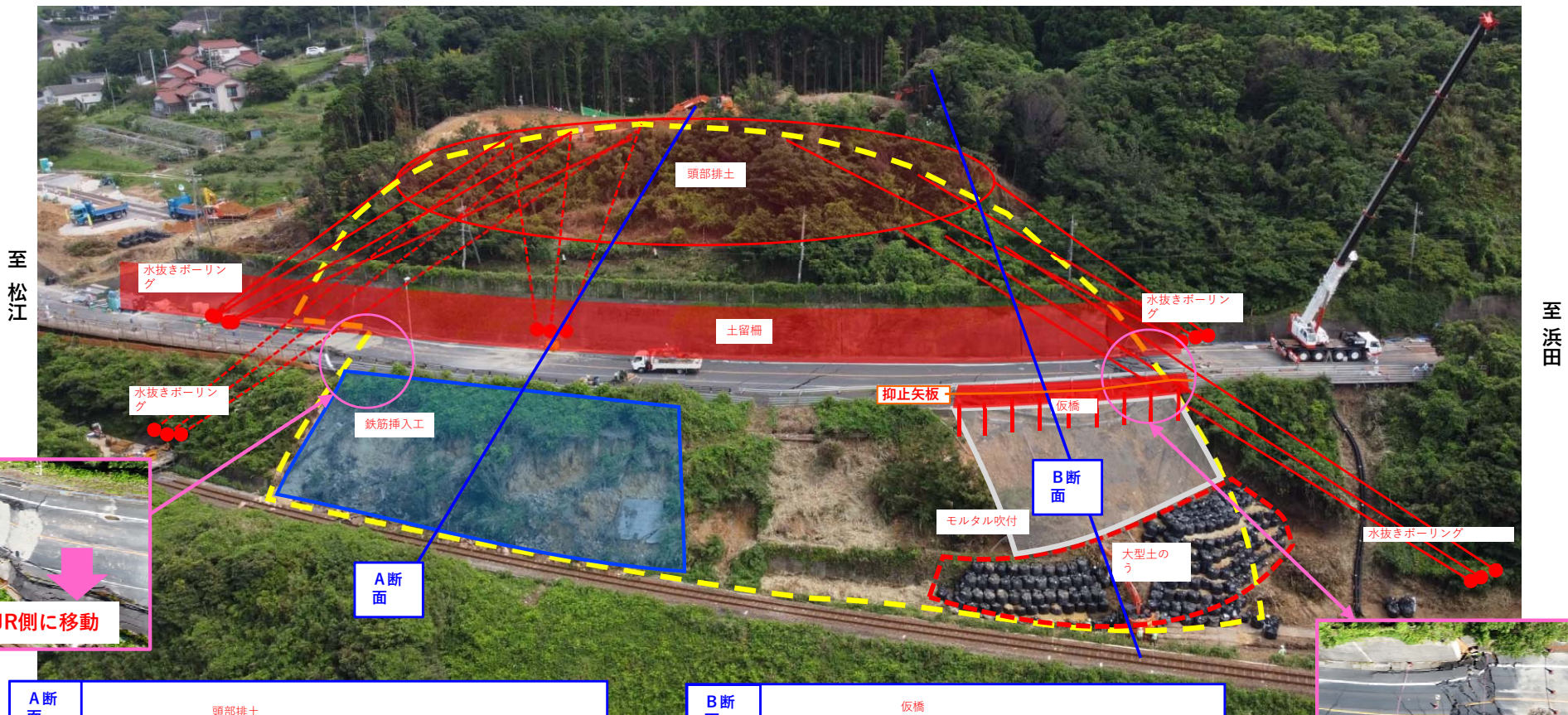
歩道約20m滑落
情報ボックスHH滑落
水道管破損

石積擁壁 崩落

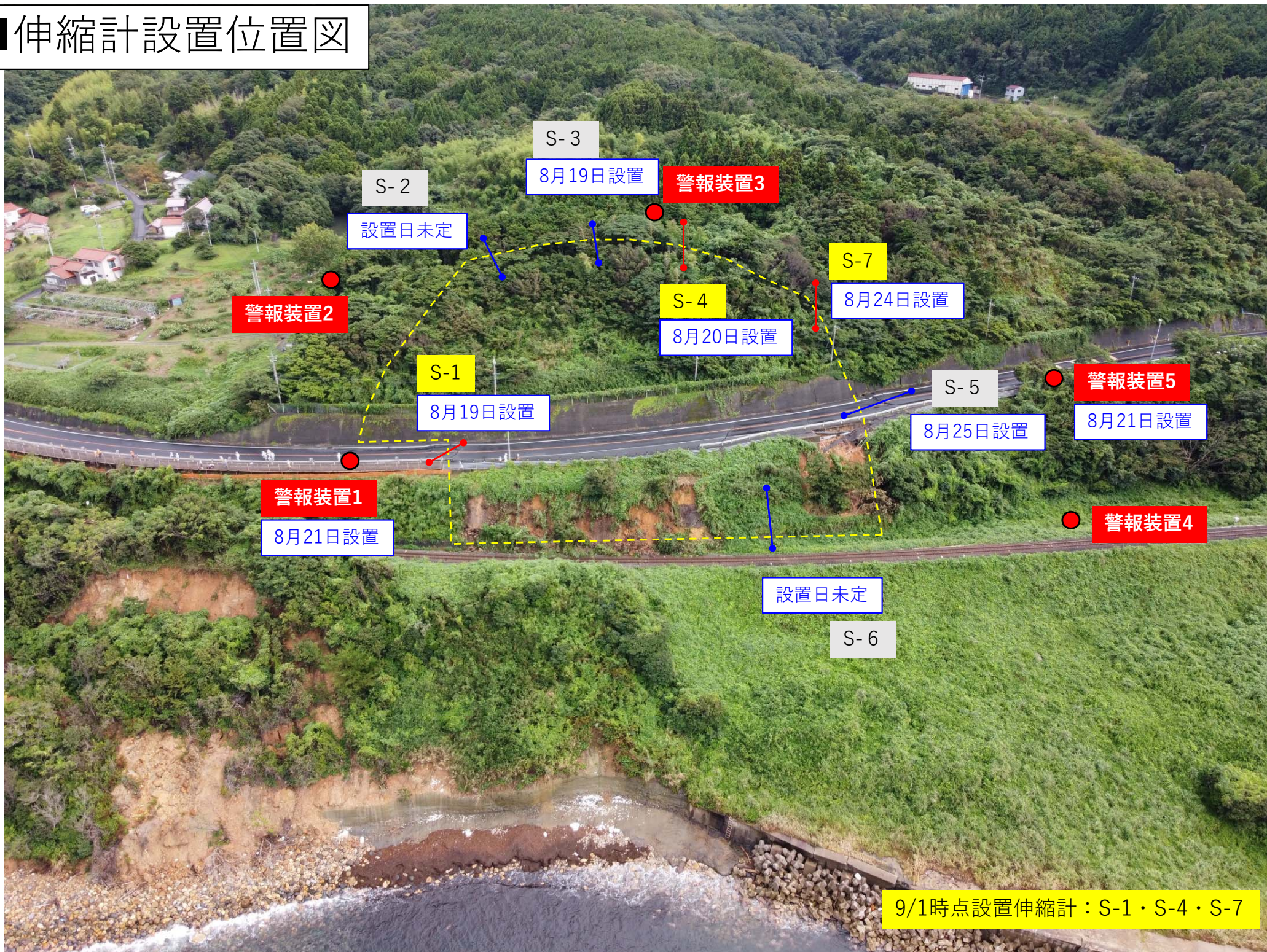
8月30日時点



■ 応急復旧対策



伸縮計設置位置図



監視体制

国道9号多伎地区地すべり対策 現場作業の判断基準（案）

1. 作業中止及び再開基準

観測項目	作業中止（避難）	作業再開
雨量計 （キララ多伎観測所 ※）	・大雨警報が発令された場合 ・時間雨量10mm、連続雨量40mm以上	・降雨量2mm以下を連続3時間以上観測し、以降、雨量予測等において降雨がないと予想される場合
伸縮計	・設置してある伸縮計のいずれかが4mm/h以上を計測した場合	・異常を検知した伸縮計において、4mm/h未満を連続3時間以上計測した場合

※現地に雨量計設置後はそちらへ切替

2. 周知方法

異常を検知した時点で

- ①アラートメール
- ②赤色灯及びサイレン

により周知

注) 現地の状況、応急対策の進捗等により、随時見直し

○被災状況

- ・ 8月9日～18日までに降り続いた大雨（キララ多伎観測所累計430mm）により、道路脇法面(山)に地下水が溜まり、地すべりが発生。
- ・ 地すべりの規模は、幅約100m、高さ30m以上に及んでいると見られ、地盤変位を確認した結果、山頂部で最大で約3m滑落を確認。

○これまでの応急対策工の実施状況（9/1 17:00時点）

- ・ 地すべり抑制工 水抜きボーリング（15本）、頭部排土（約4,000m³）
- ・ 崩壊箇所の対策工 道路下のり面（西側）対策(大型土のう積594体)

○監視体制

- ・ 地盤の変位は、発生後21～25日は平均7.1mm/h、応急対策工の実施により、26日以降9月1日までは平均0.6mm/hで滑動が収まりつつある。
一方、降雨等の影響により4mm/hを超えたケースあり（超えたのは1回）
- ・ 24時間伸縮計で監視、26日以降4mm/hを越えた時点で警報、メールで知らせ作業員を退避

○今後の応急対策（案）

- ・ 地すべり抑制工
頭部排土（約6,000m³）※さらに本格復旧に向けた排土を継続
- ・ 崩壊箇所の対策工
道路下のり面（東側）法面整形(切土整正（鉄筋挿入）、モルタル吹付)
道路下のり面（西側）対策(抑止矢板70枚、モルタル吹付)
- ・ 一般交通（片側交互通行）の危険防止に関する対策
仮橋設置 約60m(車線幅確保のため)、土留柵(150m)、舗装補修など

【委員会の議論】

- ・ 被災状況とこれまでの実施状況の報告、今後の対策は、概ね了解。
- ・ ただし、応急対策の実施にあたっては監視体制を十分に確保し、また構造物の検討にあたっては、地質調査等による詳細検討を実施すること。